

職員研修キックオフワークショップ



地域の人と一緒に
なって、我々も幸せ
づくりに参加してい
きましょう。この気
持ちを大切に研修に
望みましょう。

吉岡市長

地域福祉とは何なのか、 計画策定に向けての勉強会

高浜市では、すべての市民が幸せを感じ、いつまでも住み続けたいと思える高浜市を実現するために、市民一人ひとりが主体的に取り組むことを考えられるような計画をつくっていきます。来年度から市民を交えて計画づくりの作業がスタートし、職員の皆さんが計画づくりを進めるワークショップでファシリテーターを務めます。今回の研修キックオフでは、地域福祉計画策定のアドバイザーである日本福祉大学の野口先生をお招きし、地域福祉についてレクチャーを受けました。職員のみなさんにとっては、高浜市の地域福祉について考える機会となりました。今後、野口先生は策定委員として計画策定全体を、studio-L は職員研修や市民参加を支援していきます。

日付 平成 26 年 10 月 24 日(金)
時間 09:30～12:00
会場 高浜市役所第2会議室

プログラム

- 09:30 はじめに
- 09:35 前回のふりかえり
- 10:00 レクチャー
- 11:00 地域福祉についてのワーク
- 12:00 閉会

地域福祉についてのレクチャー

「地域福祉計画って何？ーしあわせのまちづくり」と題して、日本福祉大学の野口先生に地域福祉についてレクチャーをしていただきました。

【野口先生レクチャー趣旨】

地域福祉計画は、第6次総合計画を土台とし、高浜市の幸せを描いていきます。介護や障がい者の計画とも関連しながら、各課が計画を共有することが重要です。また、「安全」「安心」「快適」の要素が大切であり、防災・減災システム、地域包括ケアシステム、人に優しいまちづくりの視点を計画に盛り込むことが必要です。地域福祉計画は他の計画と違い、10年、20年先を見据え、住民主体で作成していくものです。地域福祉のガバナンスは、市場、地域、家族が関わり、自助、互助、共助これを公助で支え、市場もこれに参加しなければいけません。



テーブルワーク

地域福祉と聞いて思いつく言葉を挙げ、レクチャーの前と後とで比較しました。福祉分野の業務に関わったことのない職員の方には難しかったようですが、レクチャーを受けた後の言葉では、“市民が計画をつくる”、“成熟社会を目指していく”などレクチャーで印象に残った言葉が挙がっていました。また、高浜市の地域福祉の現状について分野別に確認するワークでは、健康づくり、見守り・支え合い、防災・減災など全9分野について万遍なく現状を挙げられている人が多く、広い視点で地域福祉をとらえることができました。



ブレイクタイム

約1時間のレクチャーを受けた後は、固くなった体をほぐすためにみんなで肩たたきゲームをしました。体を動かすことで気分もリフレッシュすることができました。



講評

地域福祉についてワークをした後は話し合いの結果をグループで共有。その結果を各グループが発表し、野口先生から講評をいただきました。野口先生いわく、地域福祉は市民が主体であること、成長型社会ではなく成熟型社会を目指すということへの理解ができていた。人のために行動していくと幸福度は高まるので、地域福祉計画を高浜市の隅々まで知ってもらう努力をしましょう。

参加者の感想

- ・住民同士の連携が大切であり、コミュニティ形成の充実が必要である。
- ・「誰もが主役であり、出番を作っていくことが大切である」という野口先生のお言葉が心に残りました。
- ・現状では様々なサービスが実施されている中で、それをどう福祉的につなげていくかが大事かと考えさせられました。
- ・まだまだ知らない高浜のステキな政策が多くあることが大きな発見でした。
- ・地域福祉の計画を立てるにあたっては、現状（成熟型社会）を知ったうえで考えることが必要。

次回のご案内

日付 平成26年11月12日（水）

時間 13:00～15:30

会場 高浜市役所第2会議室

studio-L 山崎亮による第1回職員研修。高浜市の地域福祉の課題を考えます。



studio-L（スタジオエル）は、代表の山崎亮が2005年に設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するコミュニティデザインに携わる。これまでに、いえしま地域まちづくり、海士町総合振興計画など、まちづくりのワークショップや住民参加型の総合計画づくりなどに携わっている。<http://www.studio-l.org>